

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ことばとこころの支援室 にしまち			
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 6日		～	令和8年 2月 6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	44名	(回答者数)	40名
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 6日		～	令和8年 2月 6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 17日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	言語聴覚士を中心とした個別言語療育という専門的な軸があること。	方針を保育士等と共有すること(多職種協働)により、多角的な支援が可能になっていること。 定期的に勉強会を開催し、療育の知識・技術に努めていること。	スタッフが研修などに参加できる機会を増やし新しい知識をみんなで共有していくことで、より専門性の高い療育の提供を目指す。
2	保護者の方の同席が基本体制であるため、療育の見学・参加ができる環境であること。	保護者の方に療育に見学・参加していただき、園や家庭での様子の情報共有、困りごとなどの相談援助、療育の様子のフィードバックなどを行っていること。	今後も研修等を通じ、よりの確な相談援助を行える体制を整えていく。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	環境面において、作業する環境の工夫についての要望があった。また、建物に段差があるなどバリアフリーの面で配慮が必要であること。	民家を利用しているため、建物の構造上の問題や、段差に対して声掛けや見守りによる配慮に頼らざるを得ない部分があること。	まずは、利用児童が落ち着いて過ごせるよう工夫し、できるところから環境の整備を進めていく。建物内の段差についても、安全に移動できるよう改めて動線を工夫したり注意を払ったりすることで、より安心できる場所を目指す。
2	安全対策等は適切に実施しているものの、周知不足でが推測されること。	伝達方法に課題あり。保護者と情報共有できるアプリを利用しているが、お知らせの閲覧数が少ないことが推測される。	情報のアナウンス方法や、視覚的に分かりやすい情報発信方法の検討。
3			